Support News
2011.6/20.NO.20

後援会便り

社会福祉法人千鳥福祉会
〒690-0814 松江市東持田町1415
TEL0852-24-8820 FAX0852-24-8825
URL http://www.9.ocn.ne.jp/~chidori/
E-mail chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp

写真提供／多久和　宏朋氏

東日本大震災復興支援サマーフェスタ

千鳥福祉会後援会　会長
稲　塚　　公　郎
（松江土建株式会社相談役）

日ごとに暑さの感じられる季節になりました。皆様お元気でご活躍のことと存じます。

さて去る5月14日には多数の皆様のご参加を頂き、千鳥福祉会後援会10周年記念式典を無事開催することが出来ました。互いに支え合って10年、ご協力頂いた会員の皆様に改めて感謝申しあげます。

ところで、東日本大震災の発生以来3ヵ月以上が過ぎましたが、未だにその時の揺れや津波の規模の大きさ、原発事故、避難民、復興のことなどがテレビ・新聞で大きく報道され、今後の震災対策や安全性確保の課題で溢れています。世界的に見ても、自然災害史に残る記録的な巨大地震であったということを本当に痛感いたします。多くの貴重な人命が失われ、被災された方々のことを思うと心が痛みます。厳しい生活を続けておられる方々が、一刻も早く元の生活に戻られますよう強く願う次第であります。

今回の震災はこれからの日本に対して多くの問題提起をしているように思えます。

①マグニチュード9の揺れに対して、日本の建築・土木の構造物は、現在の基準で果たして耐えられるのか
②将来のエネルギー政策をどうするのか
③被災地の復興の青写真
④落ち込んだ経済の回復は
⑤地震防災対策の見直しは
⑥被災された方の震災ストレスに対する心のケアは
⑦日本の安全に対する世界の信頼回復はなど

課題は幾らでも存在しています。いずれにしても、長期的に根本的な国家対応策が緊急の課題として求められています。

日本は世界有数の地震国であり、古くから大きな自然災害による困難に遭遇してきました。その度大きな犠牲を伴いながらも、知恵を絞り経験を生かし、支え合って乗り越えて来ました。今回も我国は多少の時間が掛かっても、努力を重ね連携を図りながらこの困難を必ず克服出来るものと確信しています。そのためには政治は強いリーダーシップを発揮し、国民も現状を良く理解し、節約を奨励し、時には耐え忍ぶことも必要ではないかと思います。

私達が今、自由主義や民主主義の基盤の上に立って、企業活動や個人生活をして行く上で、地球環境を維持するための節約やムダの排除が、最優先される時代を生きていることを再認識し、結局のところ国民が皆で支え合って生きて行くしか方法は無いということを、この災害は教えてくれているのではないかと思います。

今年のサマーフェスタは、東日本大震災復興支援サマーフェスタとなっています。10年間の経験を生かし、さらに参加者の視点で工夫を重ねて大いに盛り上げて、私達の気持ちを被災者の皆さんに届けようではありませんか。盛会を祈っています。

千鳥福祉会後援会10周年記念式典・祝賀会

現場があり参加できなかった職員の思いも詰め込んで感謝!

感謝

今年、千鳥福祉会は事業を開始して20周年、後援会は再組織して実質的な活動を開始し10周年を迎えました。まさに存亡の危機にあった10年前、そうした局面にある組織と関わりを持つことのリスクを承知の上で、40の企業様・個人様が手を差し伸べてくださり、後援会活動が始まりました。

お陰様でこの十年、安心の中に障害がある方の支援に専念することができ、順調に支援を展開することができました。そして、あの苦難があったからこそ、多くのことを学んだかけがえのない今があります。あらためて役職員一同、声援を頂きました多くの方々に心から感謝の意を表します。

また、後援会員の皆さまのお力を借りて開催に踏み切った夏祭りは、次第に応援してくださる方も増え、今年のボランテアさんの数は150名を超える予定です。障がいがある方も年に一度は一般の方々と何一つ不安感なしに祭りを楽しむことができたら等、多くの想いを持って始めましたが、利用者さんにきちんと支援者が付き、一緒に楽しんでくださる来場者が毎年2000人を超え、願いどおりの「インクルージョン」な時間と空間を作り出すことができました。奇跡のようです。

今、私どもはこの後援会十周年記念にあたり感謝と共に「これほどの支援を頂くに値し、地域から必要とされる事業所となる」「今後も精いっぱい、コツコツと一日一日すべきことを大切にする」という想いを新たに致しました。

どうか、今後とも末永いおつきあいをよろしくお願いいたします。

社会福祉法人千鳥福祉会　理事長　山本昌子

稲塚公郎後援会会長挨拶

保護者を代表して、石倉　貢様からは後援会にお祝いとお礼の言葉を頂きました。

〈理念と事業所の方針唱和〉
私たちが目指すものにご賛同頂きずうっと一緒に活動して頂きたく唱和をします。

〈新入会員の紹介(今期10名)〉
・和幸電通株式会社社会社松江支店
　　取締役支店長　大西秀治様
・株式会社ミック　本社営業部
　　細木　剛様
他個人様8名

第2号議案

平成２３年度事業計画(案)

5月10日	監事監査会
5月14日	第１１回千鳥福祉会後援会総会開催
	千鳥福祉会後援会１０周年記念式典・祝賀会
7月17日	千鳥福祉会サマーフェスタ２０１１及び
	ドキュメント共催参加
8月　上旬	千鳥福祉会サマーフェスタ２０１１拡大役員会
1月　下旬	千鳥福祉会後援会役員会開催
6月、1月	後援会便り発行

千鳥福祉会より感謝状贈呈

千鳥福祉会後援会祝賀会

■役員改選があり、平成23年度全役員は留任し引き続き努めます。
・会　長／稲塚公郎　松江土建（株）相談役
・副会長／伊藤立身　和幸電通（株）監査役
・副会長／長嶺幸恵
・理　事／佐藤エミ子（有）司建設常務取締役
　　　　　野津瑞江　紙谷鉄筋（株）常務取締役
・監　事／青山まゆみ（株）ピープル取締役）
　　　　　岩崎光春　（有）CPアドス代表取締役

■平成23年度総会におきまして、サマーフェスタ2011の10回目を実施するとともに、今年は山陰放送制作、千鳥福祉会のドキュメンタリー番組に共催することが総会で決定いたしました。今年のサマーフェスタにも取材が入ります。テレビでの放映は今年の8月15日の予定です。上記左は今年の事業計画、右は今年の予算書で、双方とも総会で承認を受けましたのでご報告いたします。

「私たちの10周年」 和幸電通株式会社 取締役松江支店長　大西秀治

　私は、さまざまな方とお付き合いをする中で、平成14年からですから今年でちょうど10年になりますが、67人の会員と1年に1回旅行に行くようになりました。会社の仲間ではありませんし、親戚でもありませんし、町内会の仲間でもありません。住まいは、みな違いますし、会員の中には関西の人もいらっしゃいます。年齢も50歳代が私一人で年長の方は70歳代で平均年齢65歳くらいでしょう。会員の中には、旅行に行くときだけ出会うという方もいらっしゃいます。そういう仲間なので、時々集う意味もあってか、会の名前が「集いの会」といいます。会長（女性）、副会長（男性）(一応決まっています。）に大方の行き先（必ず温泉地）を検討してもらい、私が名所、旧跡その他工程表を作成し、連絡系統のとおりにFAXで知らせて準備OKとなります。そして、颯爽と？子供のように（前日は眠れない）？楽しい旅のスタートとなるわけです。車での旅行ですのでルートは決めていますが、宿には夕方までにチェックインすればいいのですから、誰かが○○を見たいと言えば工程の変更は自由です。そして、宿ではその日の感想、明日の予定のチェック等々一献交わしながら歓談するのが何とも言えないのです。このような調子で北は北陸、奥飛騨、南は鹿児島（2泊3日ではこのへんが限界）まで数多くの場所に足を運びました。旅行中にはさまざまなハプニングもありましたが、みなさん家庭がある身、車の運転は極力交代しながら安全運転を励行し、10年を迎えました。当初は一度きりの旅行と思って参加しましたが、2年、3年と続くうちに、時には急遽家庭の都合で欠席される人もおられましたが、ほとんど同じメンバーで、よくも続いていると我ながら感心しています。今では周年行事としてみなさん楽しみにしています。10年は節目の年ですが、まだまだ通過点と思っています。「集いの会」の会員相互の出会いと絆を大切にし、会長、副会長以下会員の皆さんの気持ちが一つになって、まだまだ続く「集いの会」なのです。

千鳥福祉会後援会10周年にあたって。 協同組合プロテクノ 専務理事　石川輝海

　千鳥福祉会後援会十周年、おめでとうございます。
　私が千鳥福祉会と関わりを持ったのは事業部長の宮廻先輩が松江工業バレーボールOB会の会長をされ、その末席に私が居たのが始まりでした。当時、学校のクラブは封建制。先輩は「雲の上の人」後輩は常に小さくなっていた時代でした。しかし、お話をして見ると、先輩の持つ威圧感はなく、物腰の低さと緻密な気配りのある方だと、意外な感を受けました。
　その後、山本理事長以下施設の皆様と幾度か接触を持ち、又年々盛況に成る夏祭りにも参加するにいたって感じたことは、今まで、こうした世界にうとかった私は「こうした施設が世間からいかに期待されているか」又「こうした施設運営がいかに厳しいものか」しみじみわかった気がします。行政より補助があるにせよ、施設としては一般企業と同じように独立して施設運営をせねばならず、障がいがある人に対し、行政からもっと何かの後押しがないものかと考えざるをえません。
　施設を訪れて感じることは、施設内にみじんの暗さはなく、明るい！これも山本理事長の明るさと幹部の方々の指導のたまものでしょう。又、職員みんながこの仕事に誇りを持っているように思えます。
　現在、震災、経済の低迷等雇用の厳しさが増す中で、今後、障害者施設に関する事業、雇用依頼の大変な時代になると思われます。今後も、当施設が世間の期待を背に、持ち前の明るさを持って施設運営に邁進されることを祈るばかりです。
　十年一昔、色々な事がありましたでしょう。さらなるご発展を期待し、後援会十周年のお祝いを申し上げます。

「10周年記念式典」に参加して。 島根電工株式会社 取締役松江営業所長　澤田淳二

　千鳥福祉会後援会の一員として10周年記念式典に参加させていただきました。
　私たちは日々の生活において、ハンディキャップのある方とのかかわりが少なく、どのように接すればよいのかわからないのが現状です。そんな中、千鳥福祉会後援会に参加させていただき、企業としてはもちろんのこと、社員も夏祭り等を通じて、ハンディキャップのある方と交流できることに感謝すると共に少しでも援助が出来ればと思っています。
　式典で一番感じたことは皆様の「活力」。千鳥福祉会の役職員の皆様が山本理事長を中心に、いきいきと活動され、サービスの充実を図られている様子を強く感じさせていただきました。
　我が社においても「期待」と「感動」をスローガンに、お客様の期待に応え、感動をしてもらい、社員自らも期待と感動を持って仕事に取組む活動を進めています。その為には、社員一人ひとりが自分の仕事に自信と使命感を持ち、お客様から必要とされる存在にならなければいけないと思っています。千鳥福祉会の役職員の皆様の活力あふれる様子と自信と使命感に満ちた活動を感じさせていただき、我が社も負けるわけには行かないなと思っています。
　今後とも後援会の活動に参加させていただきますのでよろしくお願い致します。

地域から愛されるスタンドを目指して・・・ 有限会社光洋石油 代表取締役　安部賢治

　原油の高騰から原発危機、エネルギーの将来は世界的な課題でもあり今後も翻弄されるかもしれないという危惧はありますが、毎日の暮らしのエネルギーは必ず必要です。
　息子が帰ってきてくれましたので、これからも地域から愛されるスタンドとしてしっかり先を考えてくれると信じています。

１０年を支えた多くの心…

来賓としてお迎えした
西川三佐子様は、往復10時
間かけて来てくださいました。
ありがとうございました。

「福祉の尊さを実感」 中国生産性本部 組織活性化プロデューサー　西川三佐子

　今年、千鳥福祉会の施設やグループホームを見学しました。私は、経営改革を支援するお仕事しているのですが、職員の皆さんが、利用者の方お一人お一人に合わせて、寄り添っている現場を見て衝撃を受けました。利用者の方と温かい心あるコミュニケーションがいたるところでされていることや、生活の基本を身につけることに妥協されないこと、施設から離れて地域の中で暮らしていけるよう万全のサポートしていること、何より、焦らず・根気よく、仕事の指導をすることなど、千鳥福祉会の職員の皆さんから人材育成の本質について学ばせてもらいました。その折に、山本理事長が、「人が人らしく生きるには、食べることと・寝ること、だけではなく、楽しむこと・働くことが、大切なのです。」と教えてくれました。利用者の方が、楽しく仕事ができるように、その次は、やりがいを持って仕事ができるようにと、職員さんが様々な工夫や改善をされていました。職員の皆さんは、日々の仕事を繰り返すだけでも大変なのに、意識が高く、素敵な笑顔で応対していることに感動しました。
　私は、福祉のことについて全くの素人ですが、福祉の尊さを千鳥福祉会を通して実感しました。これからも、後援会の一員として応援し続けたいと心から思っています。

10周年を迎えて～つながりで支える福祉！ 新和設備工業株式会社 取締役副社長　柏木英作

　本年、千鳥福祉会後援会が、現在のような組織として改編されて以来、10年目を迎えられ心からお慶び申しあげます。
　また、先日このことを記念して盛大に式典が催され、大変喜ばしく思うところでございます。思い起こしますと、前会長　高場光三郎様からこの後援会についての意義深いお話を頂きました。社会福祉法人千鳥福祉会で、山本理事長様を中心としてあの明るいリーダーシップが浸透し、それを体現しながらそれぞれの施設で働いておられる皆様方の頑張りを応援し、そしてこの事を外部から支えることの重要性などについて伺いました。その主旨に賛同し法人会員として入会させて頂きました。そして、その後現在の稲塚会長に引き継がれ益々後援活動も充実、拡大をして来ていると実感致しております。
　障害を抱える方々を支援していく事の重要性を考える時、あのサマーフェスティバルと少なからず重なる部分があると感じてしまうのですが、私にとっては約20数年前に松江地区でも開催されていた「わたぼうしコンサート」へ関わった時のことを思い出しています。当時、松江青年会議所に所属し、青少年次開発委員会のメンバー10名余りが、松江市母衣町にあった松江市社会福祉協議会を中心とした「わたぼうしコンサート実行委員会」に出向し、大勢のボランティアの方々といっしょに様々なお手伝いをさせて頂きました。その際感じたことですが、まだ若年で福祉とか介助などについて何の知識も持たないままの私が直面したのが、障害を抱える人への接し方の問題でしした。例えば、ほんの少しの間だけですが、車椅子を押してあげたり、ちょっとした動作の補助をしてあげたりする時に、なかなかスムーズに意志の疎通がはかれず非常に困惑したことを思い出します。2～3回の「わたぼうしコンサート」への関わりでしたが、その後は寄付金を募る部門の協力であるとか、雑務に終始してしまったと大いに反省をする若い思い出であります。
　このようなことを思い出すにつけ「サマーフェスティバル」の盛り上げやスムーズな運営を見る度に、プロの集団である実行委員会の皆様方の準備運営についても、山本理事長様、稲塚会長様を始めとするそれぞれの部門でのチームワークの素晴らしさを改めて感じています。是非共、この貴重な積み重ねと人々のつながりを活かしながら、社会福祉法人千鳥福祉会様とその後援会の事業、活動が充実・発展されますことを心からご祈念申しあげ、私の所感とさせて頂きます。

「10年を振り返って」 株式会社　吉谷 常務取締役　和田　積

社会福祉法人千鳥福祉会後援会設立10周年おめでとうございます。
　設立にあたり尽力された皆様方の思い、ならび地域の方々のご理解・ご協力あってこの10年という節目を迎えられたものと存じます。毎年恒例となっていますサマーフェスタ開催には、職員・入所者を始め2000人を超える方々の来場があり、皆さんこのサマーフェスタを大変楽しみにしていらっしゃいます。今ではこの地域にはなくてはならない催しとなりました。ここまで地域に根差し近隣の皆様に愛される行事にするには並々ならぬご努力と行動力を発揮されたことと関係者の皆様に敬意を表します。本年度も来月開催されますが、今まで以上に大盛況となることを期待しております。
　今、改めて10年を振り返りますと、私も消防防災業に携わって30年余りが過ぎました。これも、ひとえにお客様はもとより、社員の皆様、諸先輩方、家族の支えのおかげと感謝いたします。
　弊社は消防防災機器の販売・施工・点検を通じて、地域社会に安全・安心を提供する仕事を目指してきました。そこで培われたのは、仕事に対する使命感です。私達の手掛けた仕事が、地域の人たちの生活や幸せを守ることに結びついています。そして使命感をもった仕事は、さらに多くのものを私たちに与えてくれます。やりとげる満足感、社会との一体感、そしてそこに信頼される喜びがあります。これは千鳥福祉会の皆様も同じだと思います。これからも使命感の持てる仕事を皆様方の力をお借りして開拓していきたいと思っています。

「近所の後援会として」 和幸冷温株式会社 取締役部長　星野富則

　私は今から約十年前に千鳥福祉会の近所である平成ニュータウンに新居を構え引っ越して来ました。それから暫くして近所で夏祭りがあると聞き、「まあ近くの自治会が子供向けにタコヤキくらいを作る程度のものだろう」と軽い気持ちで子供を連れて行ってみました。
　行ってみると人、人、人、…屋台は左右に並び、子供と離れないよう手をしっかり繋ぎ人ごみを掻き分けて奥に進めば目を疑うようなでっかいステージ！テレビで見たことのある人が司会をしてるっ！子供は興奮しおおはしゃぎ、家内と私は呆然とし、ビール片手にただステージをじっと見つめていました。
　これが私と千鳥福祉会との強烈な出会いです。「持田寮」の看板は道すがら目には入っていましたが、何をしてるところかも当時の私には認識はありませんでした。それから毎年「サマーフェスタ」は我が家の楽しみな恒例行事となり子供会で参加させてもらったりもしました。数年後、仕事でもお世話になる事となり去年には後援会にも入会させて頂きました。山本理事長ともお話しをさせて頂く機会が増え、少しずつ「サマーフェスタ」の謎が解けてきたように思います。
　人との繋がりを大事にされて且つかなりの拘りを持たれている。理事長に頼まれたらしょうがない、断れない、人としての魅力を持たれている。不可能とあまり思われないねばり。そんな不思議な力を持った方だからあの巨大な「サマーフェスタ」が実行出来るのではないか。その拘り、魅力、力は祭りだけでなく各施設にも当然活かされています。
　この先また様々なアイデアを実現される事と思われます。後援会の一人としてそれを間近で体験できる事を楽しみに、又微力ではありますがお手伝いを続けられるよう、宜しくお願い致します。